

学校園名	宝塚市立 仁川 幼稚園	校園長名	上木 美佳
------	-------------	------	-------

1 学校教育目標

心豊かに たくましく生きる子

- ①元気に遊び、思いやりのある子 ②あきらめずにやりぬく子 ③自分で考えて行動する子

2 重点目標

- ・ 主体的に考え、活動する幼児の育成に努める。
- ・ 豊かな感性を育み創造力、思考力、道徳性の芽生えを培う。
- ・ 「こころと心のふれあい」を大切に、健康で安全な生活に必要な基本的生活習慣と態度の育成に努める。
- ・ 学校や家庭、地域・保育所及び小中学校との連携を密にし、相互理解を深める。

3 学校自己評価結果（A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善）

領域	評価の観点及び評価項目		達成状況	学校の取組状況・改善の方策	4 評価項目ごとの学校関係者評価
学校運営	開かれた幼稚園づくり	情報発信 園庭開放 保護者の保育参加	B	保護者説明会は、運動会後に実施。ホームページや園だよりで子どもの様子や園の方針を具体的に発信。しかし、参観の機会が大幅に減少した。子供の心の育ちについて説明不足を感じる。	<p>今年度は、コロナ禍で行事や衛生管理、保護者への説明等苦勞が多かったと思われる。そのような中でも、多くの行事が開催され、今できる最大限の参観等、園が開かれていたと感じる。秋のオープンスクールや親子での土粘土づくりは、子どもとの触れ合いがあり有意義だった。</p> <p>衛生管理は、幼稚園はB評価だが、日々の取り組みが評価できる。A評価に修正する。</p> <p>預かり保育の実施は保護者支援につながった。ICT等を活用した保護者の学びの機会の確保は、今後の課題である。</p> <p>子どもの表現活動や異年齢保育の充実について、さらに研修体制を整え、異年齢交流による心の育ちを大事にしてほしい。</p> <p>キャンプはなくなったが、主体的で自立的な生活を日常的に仕組んでいくことで、子どもを育ててほしい。また、相手を思いやって行動したり、次の人のためにスリッパをそろえるなど、集団の中でこそその学びを大事にしてほしい。道徳性の芽生えについては、家庭との連携が必要である。啓発してほしい。</p> <p>保育園との運動会ごっこは、悔しさや本気を学ぶ良い機会である。交流だけでなく、教師間連携も推進してほしい。</p> <p>自分の気持ちを素直に話せたり、友達の良さを認め合う学級づくりを今後も継続してほしい。</p> <p>特別に支援が必要な幼児については、共に生活することで理解が深まる。保護者同士の温かな関係性は、小学校でも継続してほしい。</p> <p>多くの未就園児が、仁川幼稚園で過ごせるように、状況が落ち着けば徐々に開いてほしい。</p> <p>地域は幼稚園を応援しようとしている。情報発信は難しいが、幼稚園が大事にしている「心の育ち」が伝えられればよい。</p>
	衛生安全管理体制整備	施設・不審者対応 安全点検・衛生管理	A	小門のみの利用によって、門前の自転車通園者との接触は改善。避難経路の確保をしながら、安全な登降園環境が整備できた。園舎の消毒は徹底した。	
	子育て支援の推進	預かり保育の充実 相談の充実 学びの場の提供	B	預かり保育利用率はコロナ禍にもかかわらず増加。保護者支援機能が定着。三密を避けるため、講演会は中止。小集団や個別の相談は随時実施した。	
	教職員の資質向上	落ち着いた学級経営 保護者との連携	B	講師を招聘した公開保育研究会は年間6回実施。表現活動や、異年齢保育について研究。教師間連携を深めた。	
教育課程	幼児期にふさわしい生活の工夫	主体的に遊ぶ創造的な保育の充実	A	今年度も本園の園舎・園庭の環境を活かした環境づくりに努めた。キャンプは中止したが自然体験や、自主自立の生活の充実を図った。	
	基本的生活習慣の育成及び道徳性の芽生えの育成	生活習慣の確立 発達に応じた道徳性の芽生えの育成	B	身辺整理・靴をそろえるなど、集団生活の責任やけじめについて、家庭との連携強化に努めた。継続したい。	
	校種間連携	近隣保育所・小学校との交流	B	近隣小学校・保育園との教師間連携は推進できた。園児交流については、来年度の実施に向けて準備している。	
課題教育	人権教育の推進	幼児期にふさわしい人権意識の育成	B	昨年度からの課題を受けて、人権参観を実施。自分の意見が言える、人の意見が聞けるなど、自分も人も大事にできる温かい雰囲気づくりに努めた。	
	特別支援教育の充実	配慮を要する幼児を核にした学級経営	B	個別の指導計画に沿った丁寧な指導と保護者との連携に努めた。幼児同士は認め合う関係性ができてきた。	
独自項目	未就園児の居場所づくり	遊びの広場の充実	A	今年度は、密を避けるために2部制・予約制にて実施。ニーズの多さを実感した。来年度も取り組む。	
	地域との連携	まちづくり協議会等地域組織との連携	B	今年度は、「とんど」「校区人権」等の活動に留まった。しかし、温かな声掛けにより、地域の支えの重要性を改めて感じる事ができた。	

